

step up

2025 校内研修通信

やまびこ2(通級指導教室)での授業の様子です。

やまびこ教室に入ると、棚の上の本が出迎えてくれました。気持ちに関わる本や、図鑑が開いて並べてあって、ページをめくりたい気持ちになりました。開いて置いてあるのが素敵だなと思いました。教室の言語環境です。



本時は、3年生の算数の授業で、4人の児童が通級しています。始まると、すぐに4人が教室にやってきました。決まった席につき、授業が始まりました。

本時の課題は、「□このあめを、1ふくろに3こずつ入れます。何ふくろできて、何こあまりますか。」です。めあては、「あまりの大きさについて考えよう。」です。あまりと除数の関係に着目して、その関係を理解します。

まずは、□が「9」のときから、始めました。おはじきを使って、具体的に操作をしながら、あまりがいくつになるか考えました。おはじきで確認したら、プリントに式と答えを書きます。

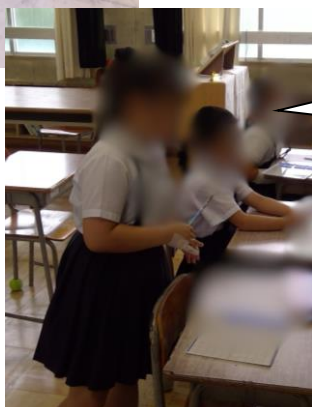


□が「9」のときは、あまりがありません。先生が、「あまりがないときは、わりきれ?」と問うと、子どもたちは、「る!」と答えます。□が「10」のとき、「11」のとき・・・と続いていきます。あまりがあるときは「わりきれない」、あまりがないときは「わりきれる」ということを全員で声に出して確認していきました。□が「12」のときになると、子どもたちが「あっ、わりきれた!」と気づき、「あー、もう、一人でできそう。」の声。自信がつくと、どんどん「自分でやってみたい。」という姿になりました。□が「18」のときまで繰り返し操作をして、あまりを確認しました。

ここで、先生が本時のめあてに戻ります。「今日は、あまりの大きさについて考えたいんだけど…」子どもたちは、あまりが、1か2しかないことに気が付きます。



先生が、「何で、あまりは1か2しかないの？」と問うと、Aさんは、黒板のおはじきを使って、説明をします。途中で、うまく伝えることができず、つまづいてしまいました。



Aさんがうまく説明できずに困ってしまうと、Bさんが、「Aさんは、こう言いたいんじゃない？」と説明の付け足しを始めました。

あまりが除数よりも小さくなることを考え、一生懸命、そのわけを説明しようとする姿が見られました。最後の練習問題も、先生と4人で話しあいながら、考えました。

授業の最後5分で、「自立活動」として、各々が選んだパズルをしました。「もう、ここまでクリアできてるで。」とうれしそうに教えてくれました。



具体物を使って学習したり、全員で話し合ったりしながら学習を進める様子から、少人数ならではのよさを感じる授業でした。

授業者より

いつも「ここで話し合い活動をさせよう。」と意図して授業せずとも、少人数学習ならではの、子どもたちが疑問を言いやすいようで、誰かの質問をみんなで共有して、自然と「ああでもないこうでもない。」と、教え合いや気づきの共有がはじまる。今回は最後の問題「 $50 \div 6 = 7$ あまり8」のまちがいを見つけ、直すところで児童は苦戦していた。後で、「実際に50こを6つずつ分ける操作をしてもよかったですね。」という助言をはじめ、いろいろな視点を教えていただきありがたいと感じた。